

ソンクラーンで厚い交流

タイ職員研修の前半は、タイの旧正月に当たり、タイの正月行事が各地で行われていました。その中で最も有名なのがソンクラーン（水掛けまつり）で、タイ全土で行われています。

もともとは、旧正月に家族が一堂に集まり、年長者に水を掛けてお清めするという行事でした。今では、沿道を通る車やバイクめがけて水を掛け、トラックの荷台からも沿道に向けて水を掛けて楽しむ行事にもなっています。

ラーマ9世、プミポン国王が昨年10月に逝去されたため、今回の旧正月ではメーンの通りでは例年よりかなり人出が少ない状況でしたが、裏通りに入ると、音楽に合わせて通りを走るバイクや車めがけて水を掛けていました。

達生堂グループ一行も、国道1号のメイン道路でバイクや車に水を掛けたり、トラック2台に分乗し、荷台から沿道に水を掛けて、メーサイ市民と交流を深めました。

メーサイ市でメーサイ市やドイトン庭園などを視察した一行は、バンコクに移動。バンコクではワット・ポーの大涅槃像^{おぼん}などを視察しました。また、バンコクから北に約80^{キロ}に位置するユネスコ世界遺産の古都アユタヤも視察。アユタヤ王朝は14世紀から18世紀にわたってラオス、カンボジア、ミヤ

ンマーの一部に勢力を持っていたが、1767年にビルマ（ミャンマー）の攻撃を受けてアユタヤ王朝は消滅、建造物や石像は徹底的に破壊されたといい、タイの歴史の一端に触れました。

平成29年4月21日



メーサイ市でのソンクラーン



メーサイ市の朝市

アユタヤ遺跡で



タイとミャンマーの国境



アユタヤ遺跡

